

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2015年第44週
(10月26日～11月1日)

- * 2015年11月4日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「ノロウイルス集団感染症対策」も掲載しています。
- * 今週は病原体検査情報の掲載をお休みします。

平成27(2015)年11月5日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2015年44週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		41週	42週	43週	44週	年累計	44週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	67	53	58	56	3,026	308	20,041
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}								
三類	コレラ							4
	細菌性赤痢			2		49	4	140
	腸管出血性大腸菌感染症	5	6	5	4	314	34	3,308
	腸チフス	1				12	1	31
	パラチフス			1		8	1	29
四類	E型肝炎	1		2		22	1	157
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1				37	3	215
	エキノコックス症					1		13
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							3
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症				1	2	1	3
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}							54
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					6		14
	つつが虫病					4	6	95
デング熱	3		1	2	75	2	253	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		41週	42週	43週	44週	年累計	44週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	4	189
	日本脳炎						1	2
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症					2		4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							1
	マラリア	1	1			16		39
	野兔病							2
	ライム病					1		8
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		1
	レジオネラ症	7	2	3	4	129	18	1,347
レプトスピラ症			1		9		24	
ロッキー山紅斑熱								

2015/11/4集計

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 56件 肺結核 28件、その他の結核 4件、肺結核及びその他の結核 2件、無症状病原体保有者 19件、疑似症 3件、年齢は5歳未満 4件、10代 1件、20代 2件、30代 11件、40代 4件、50代 7件、60代 5件、70代 10件、80代 10件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 52件、ベトナム 1件、中国 1件、国内又はフィリピン 1件、国内又は国外(渡航先不明) 1件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 4件 患者 1件、無症状病原体保有者 3件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 3件、血清型不明VT2 1件、年齢は10歳未満 1件、10代 1件、20代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は経口感染 2件、不明 2件であった。

〈四類感染症〉

コクシジオイデス症 1件 患者、年齢は20代、推定感染地は米国(カリフォルニア州)、推定感染経路は塵埃感染であった。

デング熱 2件 患者 2件、病型はデング熱 2件、血清型は不明 2件、年齢は5歳未満 1件、20代 1件、推定感染地はフィリピン 2件であった。

レジオネラ症 4件 病型は肺炎型 4件、年齢は10代 1件、30代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は不明 4件であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2015年44週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		41週	42週	43週	44週	年累計	44週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	2	4	3	4	160	11	911
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	2		2		41	3	206
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *2	14	4	2	2	197	21	1,387
	急性脳炎 *1	2		3	1	41	4	420
	クリプトスポリジウム症					3		13
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			22		150
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			2	1	52	5	355
	後天性免疫不全症候群	12	5	10	5	355	14	1,167
	ジアルジア症			1		17	1	66
	侵襲性インフルエンザ菌感染症			1		21	3	195
	侵襲性髄膜炎菌感染症					7		27
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	6	2	7	252	29	1,838
	水痘(入院例に限る) *2	1	2		1	44	2	247
	先天性風しん症候群							
	梅毒	22	21	18	28	848	42	2,100
	播種性クリプトコックス症 *2	1				9	1	95
	破傷風					1	1	97
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
バンコマイシン耐性腸球菌感染症					2		50	
風しん	1	2			31		145	
麻しん					9		29	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2				1	7	2	28	

2015/11/4集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2014年9月19日より新たに追加指定された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 4件 病型は腸管 4件、年齢は30代 2件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 3件、フィリピン 1件、推定感染経路は同性間性的接触 2件、経口感染 2件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2件 患者 2件、病原菌はエンテロバクター・クロアカ 1件、プロビデンシア・レットゲリ 1件、年齢は80代 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は以前からの保菌 1件、以前からの保菌又は手術部位感染 1件、90日以内の海外渡航歴は無し2件であった。

急性脳炎 1件 病原体不明、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はA群、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 5件 無症候キャリア 4件、その他 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 3件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 4件、不明 1件、推定感染経路は同性間性的接触 5件であった。その他の1件は、第44週に届出のあった梅毒(早期顕症梅毒Ⅱ期)と同一人物であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 7件 血清型は検査未実施 7件、年齢は5歳未満 3件、60代 1件、70代 1件、80代 2件、推定感染地は国内 7件、推定感染経路は不明 7件、肺炎球菌ワクチン接種歴は13価4回接種済み 1件、7価4回接種済み 2件、無し 4件であった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、水痘ワクチン接種歴は無しであった。

梅毒 28件 早期顕症梅毒Ⅰ期 7件、早期顕症梅毒Ⅱ期 13件、無症候梅毒 8件、年齢は20代 15件、30代 6件、40代 6件、60代 1件、推定感染地は国内 27件、国内又は国外(渡航先不明) 1件、推定感染経路は性的接触 27件(同性間 6件、異性間 18件、性別不明 3件)、不明 1件であった。早期顕症梅毒Ⅱ期のうち1件は第44週に届出のあった後天性免疫不全症候群(その他)と同一人物であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症 1件 患者、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は以前からの保菌又はその他、90日以内の海外渡航歴は無しであった。

※ 第25週で報告のあった〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件は削除された。

定点把握対象疾患 報告数 2015年44週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		41週	42週	43週	44週		
小児科	RSウイルス感染症	398 1.52	363 1.40	384 1.47	357 1.37	260	264
	咽頭結膜熱	87 0.33	58 0.22	66 0.25	69 0.27		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	438 1.68	418 1.61	539 2.07	507 1.95		
	感染性胃腸炎	917 3.51	867 3.35	1,189 4.56	1,356 5.22		
	水痘	77 0.30	76 0.29	107 0.41	101 0.39		
	手足口病	398 1.52	215 0.83	180 0.69	141 0.54		
	伝染性紅斑	75 0.29	71 0.27	81 0.31	117 0.45		
	突発性発しん	140 0.54	135 0.52	146 0.56	157 0.60		
	百日咳	8 0.03	5 0.02	10 0.04	7 0.03		
	ヘルパンギーナ	59 0.23	36 0.14	48 0.18	27 0.10		
	流行性耳下腺炎	130 0.50	124 0.48	156 0.60	143 0.55		
	川崎病 ^{*1}	3 0.01	2 0.01	1 0.00	3 0.01		
	不明発しん症 ^{*1}	34 0.13	19 0.07	31 0.12	32 0.12		
	インフル エンザ	インフルエンザ ^{*2}	36 0.09	32 0.08	49 0.12		
眼科	急性出血性結膜炎		1 0.03			39	39
	流行性角結膜炎	42 1.08	24 0.62	33 0.85	46 1.18		
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}	1 0.04				25	25
	無菌性髄膜炎	3 0.12	2 0.08	1 0.04	2 0.08		
	マイコプラズマ肺炎	43 1.72	22 0.88	48 1.92	30 1.20		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	3 0.12			2 0.08		
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) ^{*4}	1 0.04			1 0.04		
	インフルエンザ入院						
						2015/11/4集計	

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ RSウイルス感染症、流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、過去5年平均より高い値で推移している。
- ・ 流行性角結膜炎の定点当たり報告数は、過去5年平均より高い値で推移している。
- ・ マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は、過去5年平均より高い値で推移している。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2015年44週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	42			26				3			
6～11か月	70	6	3	95	4	14	2	39		1	1
1歳	170	11	13	207	5	36	8	80		9	1
2歳	46	9	26	116	4	27	7	19		8	5
3歳	20	13	39	131	14	17	16	11		1	13
4歳	5	7	55	124	11	14	20	4		2	15
5歳	2	7	69	100	18	6	17	1		2	18
6歳	1	5	75	75	19	7	20				17
7歳		3	68	86	8	5	11		1		34
8歳	1	3	39	50	5	4	3			1	13
9歳		2	30	52		3	5				9
10～14歳			52	136	10	5	7		1	1	12
15～19歳		2	4	27	1						1
20～29歳		1	34	131	2	3	1		5	2	4
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	357	69	507	1,356	101	141	117	157	7	27	143
先週比	-27	3	-32	167	-6	-39	36	11	-3	-21	-13

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月		1					1			1	
6～11か月	1	4									
1歳	1	8	2		3			1			
2歳	1	1	4		1						
3歳		2	3		2			3			
4歳		4	2		3			5			
5歳		4	2		1			1			
6歳		3	2					3			
7歳		1	4		1			2			
8歳		2	3		1			2			
9歳			1		1			3			
10～14歳			16		1			5			
15～19歳		1	2					1			
20～29歳		1	3		10			4			
30～39歳			5		6						
40～49歳			3		8						
50～59歳			4		3						
60～69歳			3		3						
70～79歳					2		1		2		
80歳以上											
合計	3	32	59		46		2	30	2	1	
先週比	2	1	10		13		1	-18	2	1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数 【保健所別】 2015年44週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田			0.33			0.33					
中央区	0.67		0.33	8.00	0.67		0.33	1.00			0.33
みなと	3.33	0.17	2.33	5.83	0.17	0.83	0.33	1.50	0.17		0.50
新宿区	2.75	0.13	0.38	3.00		0.38	0.13	0.13			
文京	0.25	0.25		4.75	0.50			1.25			
台東		0.50	1.50	9.25	1.50	3.00	0.50	1.50		0.25	0.25
墨田区	1.40	0.20	1.40	2.60	0.40	1.00	0.20	0.20		0.20	0.20
江東区	1.22	0.22	1.67	10.11	0.78	0.89	0.44	0.89		0.11	1.56
品川区	1.25	0.38	0.75	5.63				0.88			0.50
目黒区	0.80		1.00	6.60	0.40	0.60		0.60			
大田区	2.15	0.15	2.08	10.08	0.31	0.62	0.38	0.62		0.23	0.54
世田谷	0.88	0.06	2.19	5.81	0.31	0.31	0.44	0.63			0.06
渋谷区	0.25			5.50		0.25		0.50			
中野区	0.67		0.50	5.33		1.17	0.17	0.50		0.33	0.17
杉並	1.50		1.10	5.50		0.30	0.30	0.50			
池袋	1.50		0.50	4.00		0.50	0.25	0.25			0.25
北区	0.57	0.14	1.71	3.57		0.43	0.14	0.43			1.00
荒川区	2.25	0.50	4.50	3.75		0.25	0.25	0.50	0.75	0.50	1.25
板橋区	0.20		0.10	2.50	0.40	0.10	0.40	0.30	0.10		0.10
練馬区	1.00	0.08	1.69	3.92	0.92	0.23	0.31	0.31		0.15	0.46
足立	1.38	0.54	2.15	6.00	0.54	0.92	1.00	0.38		0.15	0.92
葛飾区	1.00		1.25	7.13	0.13	0.50	0.75	0.63		0.25	0.25
江戸川	1.67	0.33	1.83	5.75	0.17	0.33	0.58	0.75		0.25	1.50
八王子市	3.55	0.91	4.09	8.73	0.82	1.00	0.55	0.82	0.09		1.91
町田市	0.38		4.25	7.25	0.38		0.38	1.13		0.25	
西多摩	1.00	0.13	1.75	1.38	0.13	0.63	0.38			0.25	1.13
南多摩	1.56		2.00	3.00	1.11	0.89	1.11	0.33		0.11	
多摩立川	1.43	0.57	3.36	3.50	0.93	0.50	0.71	0.36			0.14
多摩府中	1.05	0.89	1.79	3.32	0.37	0.37	0.21	0.68	0.05	0.11	0.84
多摩小平	2.27	0.27	4.40	4.13	0.07	0.80	1.13	1.00		0.07	0.67
島しょ											
東京都	1.37	0.27	1.95	5.22	0.39	0.54	0.45	0.60	0.03	0.10	0.55

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田								1.50			
中央区			0.80		3.00						
みなと								1.00	2.00		
新宿区							0.50	3.00			
文京											
台東											
墨田区	0.20		0.13		5.00			1.00			
江東区					8.00						
品川区		0.13	0.08		3.00						
目黒区			0.25								
大田区	0.08	0.46	0.10		0.50						
世田谷		0.06	0.28								
渋谷区					1.00			2.00			
中野区			0.10		1.00						
杉並			0.14								
池袋		0.25			2.00		1.00	3.00			
北区			0.50								
荒川区					2.00						
板橋区		0.20			0.50						
練馬区		0.15	0.05		0.50						
足立			0.05		2.00						
葛飾区					3.00						
江戸川			0.37		0.50						
八王子市		0.18	0.28		1.00			2.00			
町田市		1.25									
西多摩			0.29					2.00			
南多摩			0.36								
多摩立川		0.07	0.19								
多摩府中	0.05	0.05	0.03					3.33		0.33	
多摩小平		0.33	0.26		4.00						
島しょ											

東京都	0.01	0.12	0.14		1.18		0.08	1.20	0.08	0.04	
-----	------	------	------	--	------	--	------	------	------	------	--

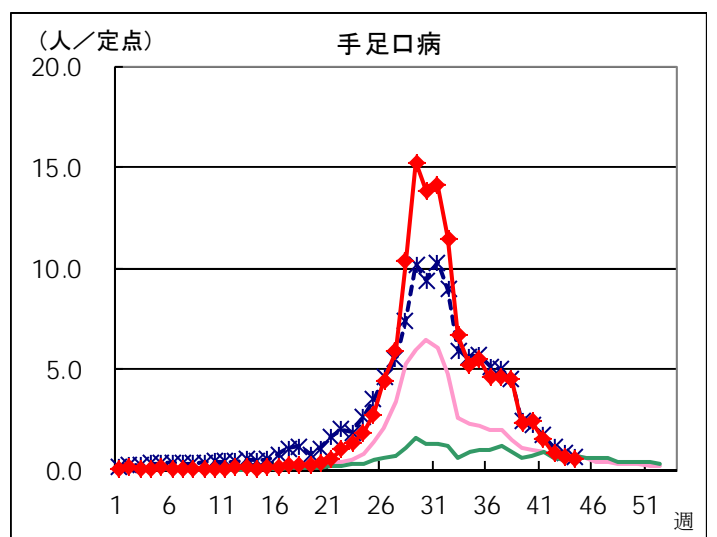
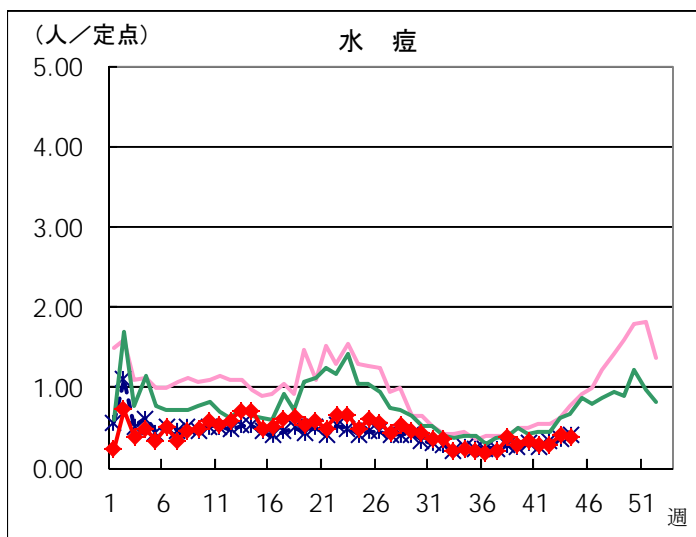
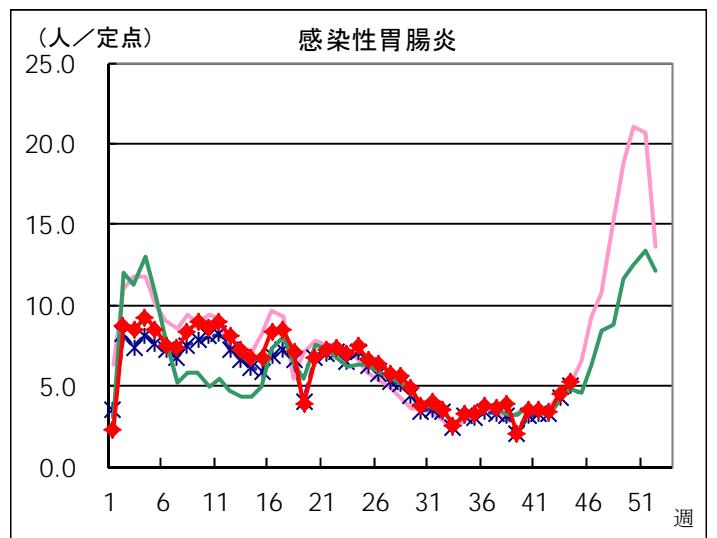
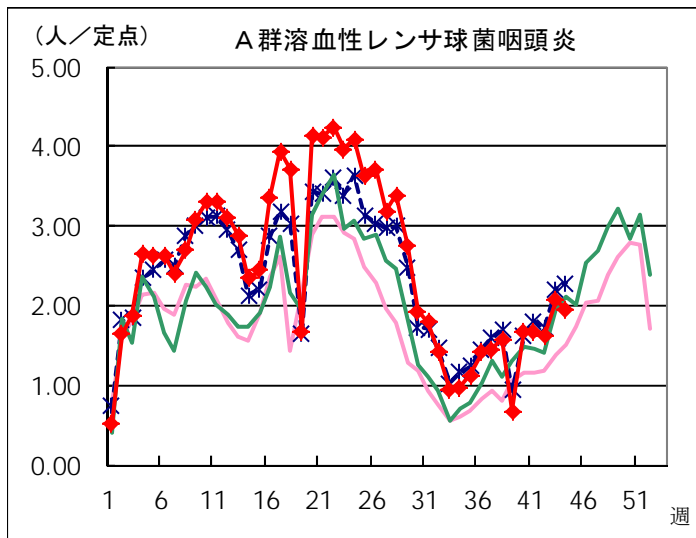
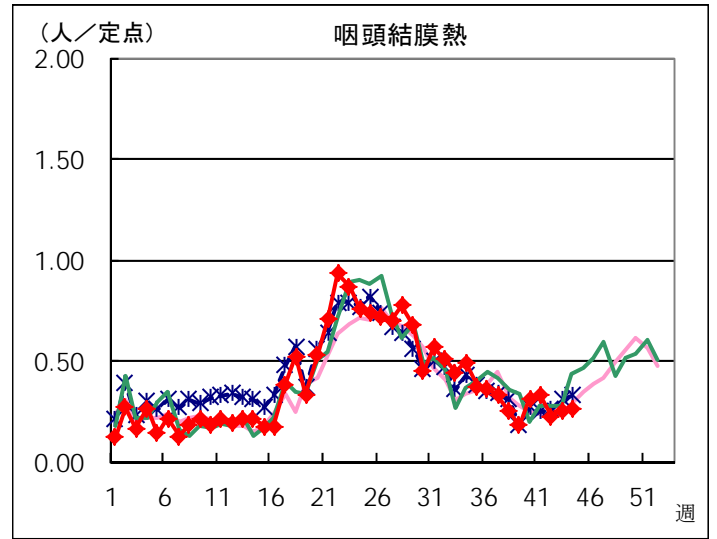
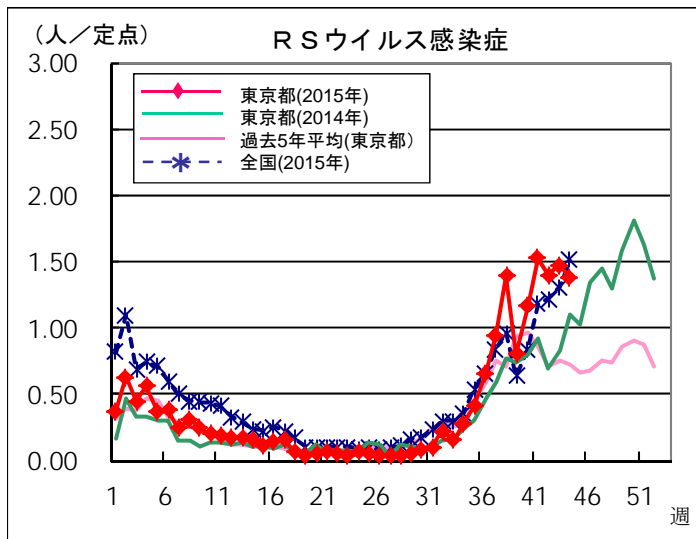
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2015年44週

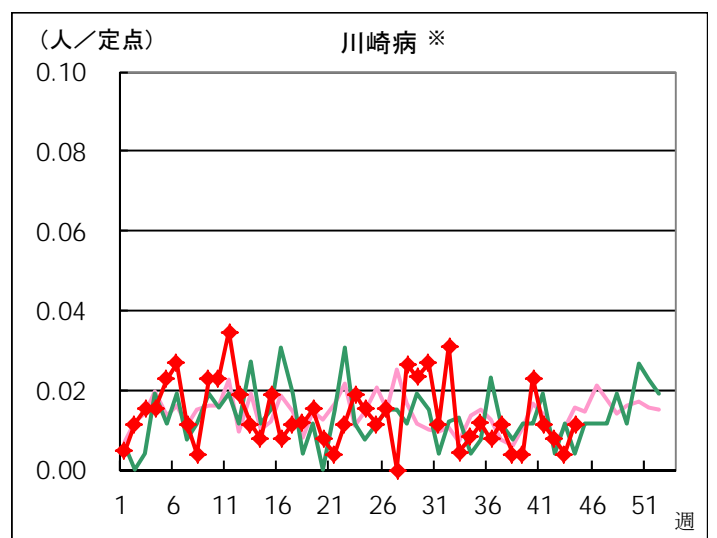
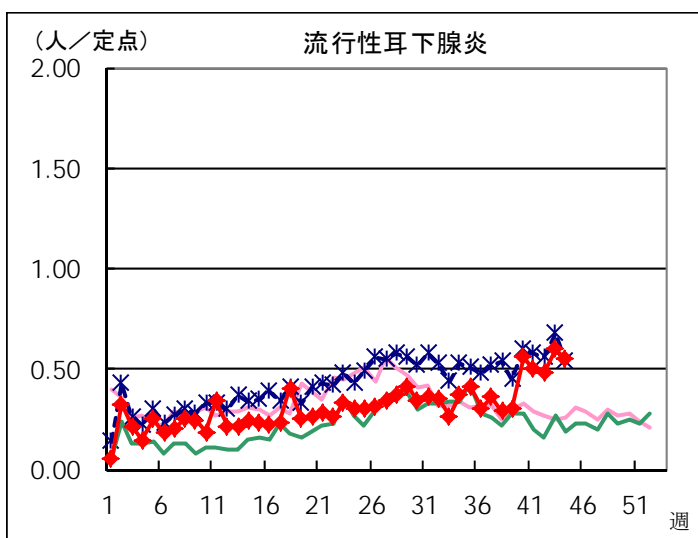
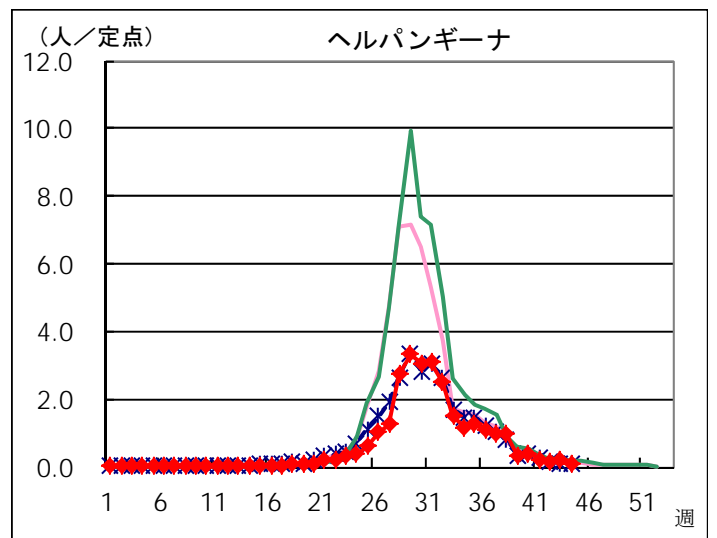
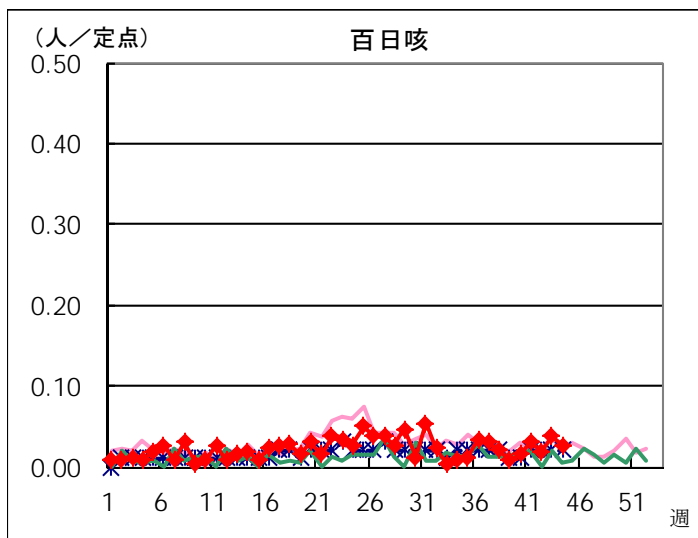
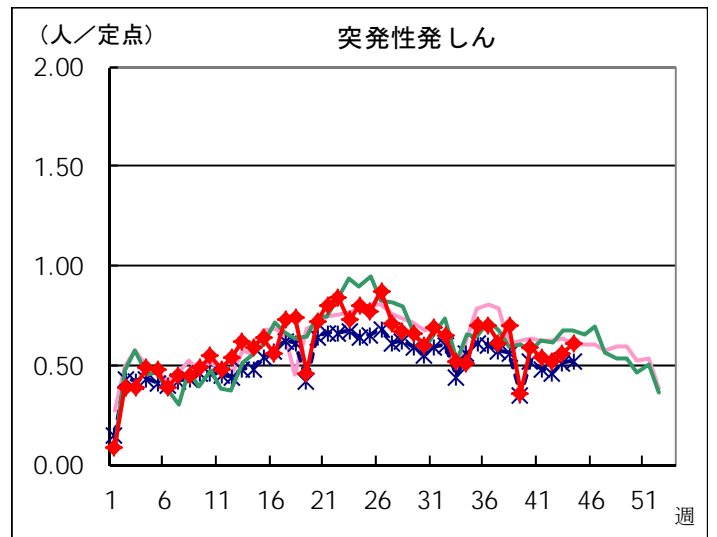
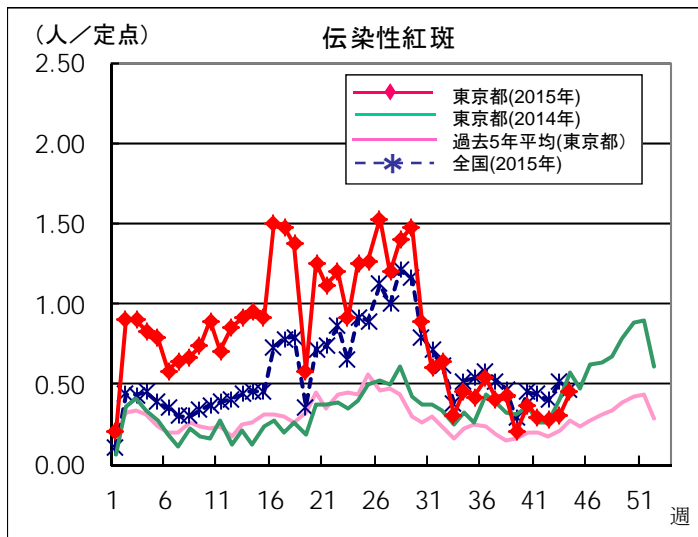
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田			1			1					
中央区	2		1	24	2		1	3			1
みなと	20	1	14	35	1	5	2	9	1		3
新宿区	22	1	3	24		3	1	1			
文京	1	1		19	2			5			
台東		2	6	37	6	12	2	6		1	1
墨田区	7	1	7	13	2	5	1	1		1	1
江東区	11	2	15	91	7	8	4	8		1	14
品川区	10	3	6	45				7			4
目黒区	4		5	33	2	3		3			
大田区	28	2	27	131	4	8	5	8		3	7
世田谷	14	1	35	93	5	5	7	10			1
渋谷区	1			22		1		2			
中野区	4		3	32		7	1	3		2	1
杉並	15		11	55		3	3	5			
池袋	6		2	16		2	1	1			1
北区	4	1	12	25		3	1	3			7
荒川区	9	2	18	15		1	1	2	3	2	5
板橋区	2		1	25	4	1	4	3	1		1
練馬区	13	1	22	51	12	3	4	4		2	6
足立	18	7	28	78	7	12	13	5		2	12
葛飾区	8		10	57	1	4	6	5		2	2
江戸川	20	4	22	69	2	4	7	9		3	18
八王子市	39	10	45	96	9	11	6	9	1		21
町田市	3		34	58	3		3	9		2	
西多摩	8	1	14	11	1	5	3			2	9
南多摩	14		18	27	10	8	10	3		1	
多摩立川	20	8	47	49	13	7	10	5			2
多摩府中	20	17	34	63	7	7	4	13	1	2	16
多摩小平	34	4	66	62	1	12	17	15		1	10
島しょ											
東京都合計	357	69	507	1,356	101	141	117	157	7	27	143

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田								3			
中央区			4		3						
みなと								1	2		
新宿区							1	6			
文京											
台東											
墨田区	1		1		5			1			
江東区					8						
品川区		1	1		3						
目黒区			2								
大田区	1	6	2		1						
世田谷		1	7								
渋谷区					1			2			
中野区			1		1						
杉並			2								
池袋		1			2		1	3			
北区			5								
荒川区					2						
板橋区		2			1						
練馬区		2	1		1						
足立			1		4						
葛飾区					3						
江戸川			7		1						
八王子市		2	5		2			2			
町田市		10									
西多摩			4					2			
南多摩			5								
多摩立川		1	4								
多摩府中	1	1	1					10		1	
多摩小平		5	6		8						
島しょ											
東京都合計	3	32	59		46		2	30	2	1	

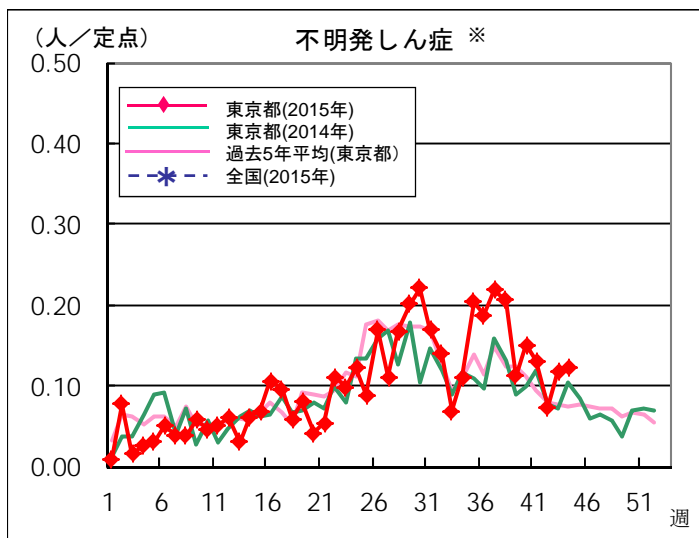
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2015年44週 現在)

◆ 小児科定点



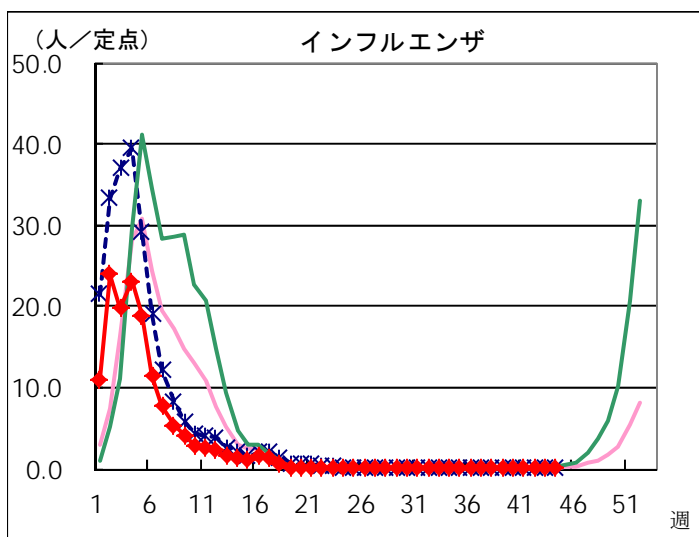


※ 東京都独自対象疾患

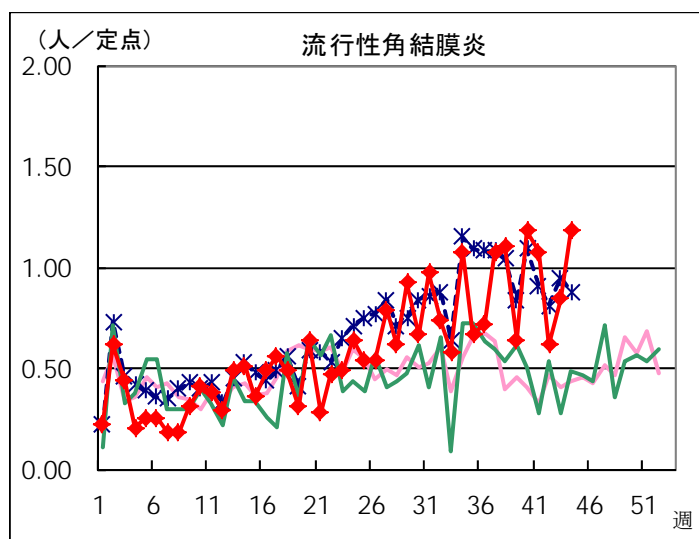
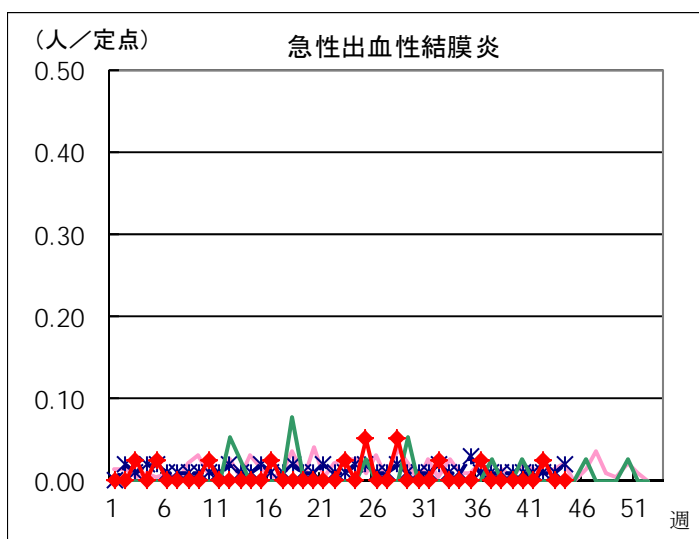


※ 東京都独自対象疾患

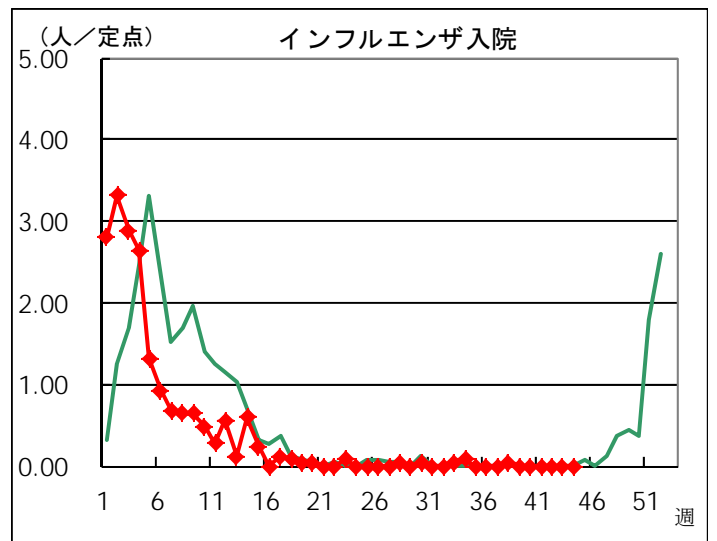
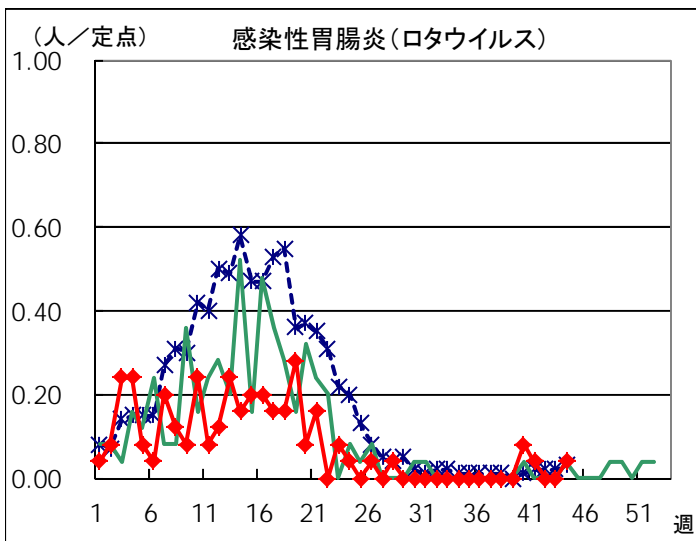
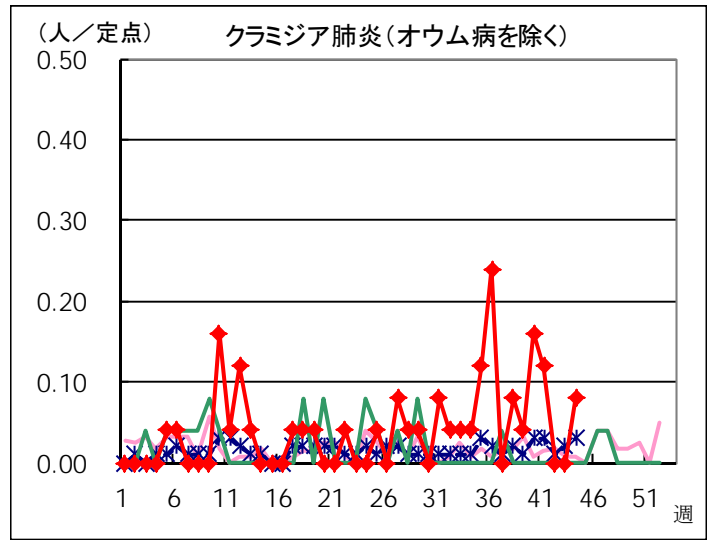
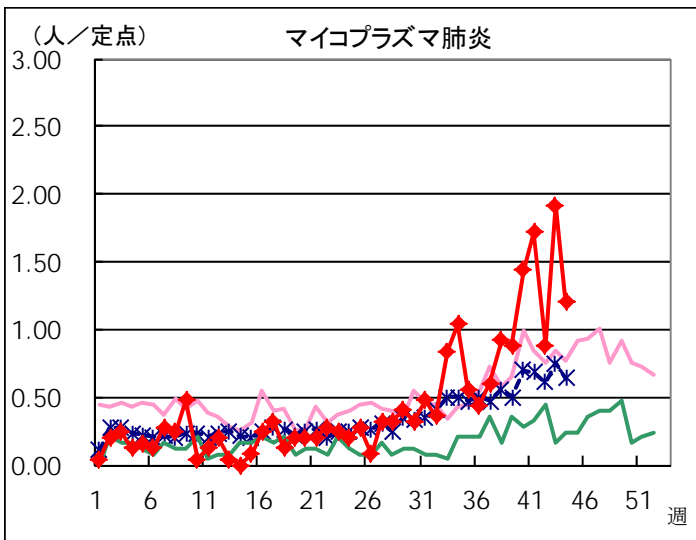
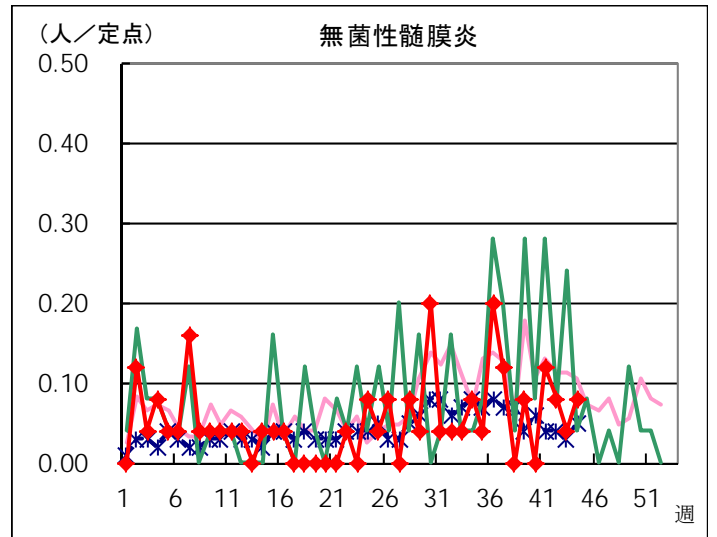
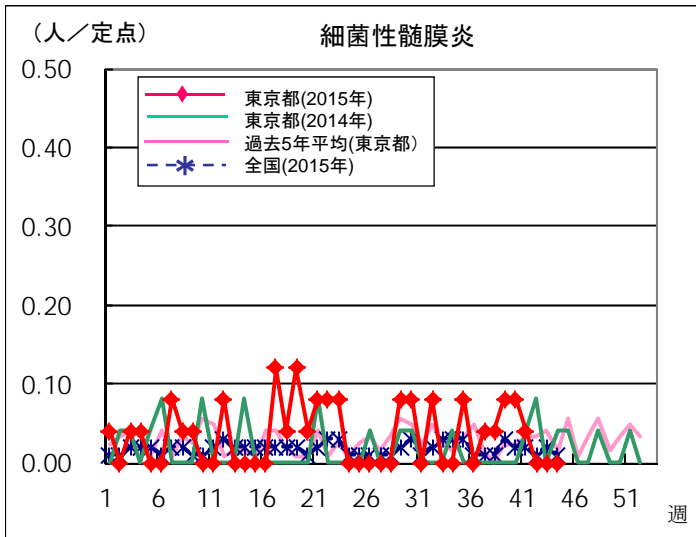
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



<感染症豆知識>

ノロウイルス集団感染症対策

2014-15 シーズン（H26/9/1-27/8/31）に都内で発生した感染性胃腸炎のうち、1施設当たりの患者数が10人以上かつ病原体が確認されたものは301件であり、5月以降も発生が続くという特徴的な傾向がみられた。施設別内訳では、最多は保育所の173件で、以下、社会福祉施設56件、小学校42件、幼稚園11件、医療機関10件、中学校3件、その他6件であった。また、小児科病原体定点医療機関26カ所から入手した74検体のうち、最多はノロウイルスの52検体（GI 12検体 GII 40検体）で、以下、サポウイルス12検体、ロタウイルス10検体であった。

一方、ノロウイルスによる食中毒は、ここ数年の多発傾向に変化はないが、2014-15 シーズンは1月以降も頻発しており、8月16日現在48件となっている。これは、昨年一年間の発生件数21件の2倍を上回る勢いであり、2011-12 シーズン（H23-24）と似た様相を示している。

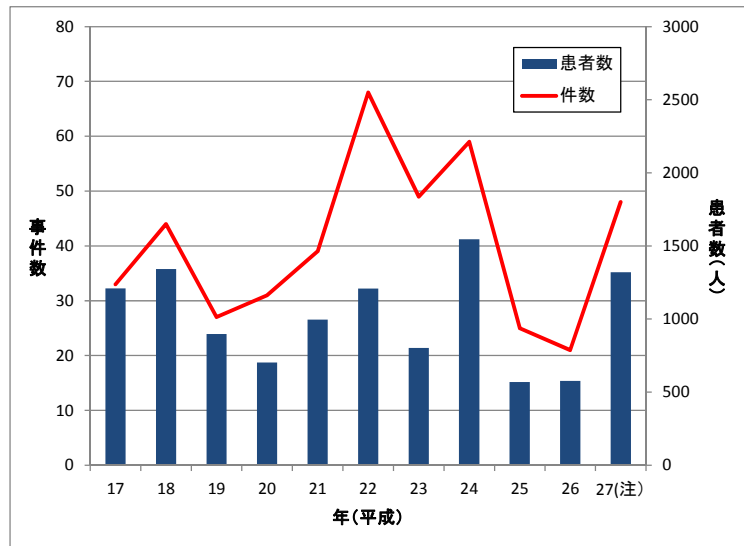
近年、ノロウイルスによる感染性胃腸炎および食中毒の流行要因としてGII.4変異株（Sydney 2012）の関連が示唆されている。当該変異株は他の遺伝子型と比較して変異しやすく、また、組織血液型抗原の種類が多く感染力も強いと考えられている。さらに、2014-15 シーズンは、これまでに検出例の少ない遺伝子型GII.17が相次いで検出された。十分なウイルス量がありながら市販の簡易検査キットでは陽性を示さないものもあり、2015-16 シーズンの流行が危惧される。

ノロウイルス食中毒の約7割はウイルスを保有している調理従事者からの汚染によるものと推定されている。そのため、飲食行動を含めた調理従事者の健康管理、調理作業ごとの適切な手洗い、的確な加熱調理、盛り付け時等における手袋の着用、調理器具等の洗浄・殺菌など、基本的な衛生管理をこれまで以上に徹底することが重要である。

ノロウイルスによる食中毒発生件数（過去 10 年）

年(平成)	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27(注)
件数	33	44	27	31	39	68	49	59	25	21	48
患者数	1210	1342	898	702	995	1208	802	1545	569	577	1320

(注)8/16現在



(文責 東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長 澁谷 智晃)